

2021 年度第 3 四半期決算 アナリスト向けオンライン説明会 主な質疑応答

AGC 広報・IR部

【全体】

Q：当期利益が 1,290 億円で通期計画をすでに達成しているが、4Q は特別損失(その他費用)等を見込んでいるのか？

A：今回の業績予想では売上高、営業利益の修正のみを行っており、その他収支、税金費用については、見通しの変更を行っていない。4Q は本決算で様々な決算整理が入ると考えているためだ。3Q まではその他収支等でプラスがあったが、為替、エネルギー価格の動向に加え、4Q は設備投資に伴う解体撤去、修繕費等が集中的に出てくる傾向がある。税金や税金資産の計上額は 4Q に最終的に確定するため、今回は当期純利益までの値を大きく見直していない。特定の項目で大きなマイナスが見込まれているということではない。

Q：3Q から 4Q にかけて全てのセグメントが横ばいの見通しだがどのように見ているのか？

A：ガラスセグメントでは、建築用ガラスは天然ガス価格が心配だが良い状況が続くとみている。一方で、自動車用ガラスが引き続き厳しいため、同程度の水準で見込んだ。電子セグメントでは、液晶用ガラス基板ではコストが少し上がると考えているが、電子部材は需要期が 4Q なので伸びるとみている。化学品では、フッ素・スペシャリティおよびライフサイエンスは 4Q に最も利益が出る傾向があり、クロールアルカリも市況が高い状況にあるので、3Q と 4Q で横ばいと見ているが、若干保守的と見ていただいてよいと思う。

Q：3Q から 4Q にかけて戦略事業で 54 億円の増益となる要因は？

A：Q4 はエレクトロニクス、ライフサイエンスともに利益が最も出る時期で、いずれも伸びるだろう。通期 550 億円は問題なく達成できていると思う。

Q：2 月発表の新中計の売上、営業利益見込を超過しているが、化学品市況影響を除くと、どの事業の進捗が良いか？

A：新中計における 2023 年の営業利益 1,600 億円の内訳は、ガラス 330 億円、電子 400 億円、化学品 850 億円、その他 20 億円だった。各セグメントともに目標数値に近づいた。自動車が非常に悪いなかでもガラスは今年度 300 億円の営業利益という見通しとなっており健闘している。電子も 400 億円に対し今年度の営業利益見通しが 350 億円なので、2023 年までを見ればもっと利益が出せるはずだ。化学品はライフサイエンスが想定よりも早く成長しているし、クロールアルカリも構造的にスプレッドが急速に悪化する可能性も小さくなっている。総じて、営業利益 1,600 億円に対しては順調、あるいは想定以上に実力が上がってきていると感じている。

Q：2022 年の業績をどう見ているか？

A：現時点では申し上げるのが難しいが、今年はクロールアルカリ事業が非常に良かった。これが来年も続くと考えるのは楽観にすぎるとは思うが、以前よりはスプレッドが大きい水準で推移すると思っている。クロールアルカリ市況の下落を他でカバーできるかが焦点になる。自動車用ガラスは販売回復が見込まれ、戦略事業は順調に伸長し、液晶用ガラス基板の設備事故影響がなくなる、などの要因により、それなりにカバーできる可能性があると考えている。実力値はかなり上がってきていると思うので、今後良い数値を出していきたい。

Q：エネルギー価格の高騰があるが、ヘッジはしているか。どれくらい、どのような期間でヘッジをかけているか？

A：主要なエネルギーである重油、天然ガスのヘッジをしている。開示している感応度では Dubai 原油 1 ドル上昇で、ヘッジ抜きの影響として 3 億円の減益だ。重油、天然ガスともに地域ごとに価格決定方法が異なり、全ての動きをヘッジすることは難しい。欧州の天然ガスは一定割合のヘッジをしている。

Q：今回の決算では原油ヘッジ益は発生しているか？

A：発生している。1年～1年半程度のヘッジをしているため、当期にヘッジ益が計上されている。

Q：エネルギー価格が高騰しているが、来年は21年に比べてどの程度のコストアップか？

A：難しい質問だ。特に欧州の天然ガス価格は足もとで異常値だ。現状の市況が年間で続くと厳しい。業績に対し、欧米は天然ガス市況が効く、アジアは原油市況が効く傾向にある。原油市況はあまり下がる傾向にない一方で、天然ガス市況は現時点では読みづらい。来期業績予想を行う際に、その時点のベストな見込を考えたい。

Q：建築用ガラス以外のディスプレイ用ガラス基板、苛性ソーダなどでもエネルギー価格の転嫁は可能か？

A：苛性ソーダなどは、基本的に価格転嫁できている。

Q：決算短信にて事業譲渡益 280 億円というのは北米建築用ガラス事業譲渡によるものか？

A：ご認識の通り、北米建築用ガラス事業譲渡によるものだ。

【ガラスセグメント】

Q：国内建築用ガラスの値上げの進捗状況は？

A：既に発表の通り、大幅な値上げアナウンスをしており、基本的にはそれに沿った対応をお客様にご理解いただいているところだ。来年以降、効果が出てくると考えている。

Q：建築用ガラスの地域ごとのコストアップと価格転嫁の状況は？

A：欧州は需給がタイトでエネルギー価格の上昇を価格に転嫁できている。価格ついて欧州と南米での上昇を強調したが、全地域で価格が上昇している。背景は原燃、輸送費等コストが上昇していることだ。日本は一層需給がタイトになることが予想される。そのような状況を踏まえ、コスト上昇分を価格に転嫁していきたい。

Q：自動車用ガラスについて、3Qの部材不足による自動車減産影響と今後の見通しは？

A：想定以上の影響があった。徐々に良くなると想定したが、3Qは非常に大きなダメージがあった。上期に百数十億円の売上高影響があったと説明したが、3Qは想定以上だった。4Qは改善に向かうと考えているが厳しい状況が続く。本格的な回復は2023年までかかるとみている。

【電子セグメント】

Q：液晶用ガラス基板の来期以降の見方について、事業環境は引き続き堅調に推移するのか？

A：堅調に推移すると見ている。前期にコロナ禍による巣籠り需要で、PC等で大きな需要増があったが、今期も大きな反動は無くテレビのインチ拡大も継続していることから、来期も需要は底堅く推移すると考えている。

Q：液晶用ガラス基板の4Q、来期1Qの数量・価格見通しは？

A：ディスプレイ事業は多少の季節性があるかもしれないが、面積として大きいのはPCではなくテレビなので、大きな心配はないと考えている。

Q：3QのEUVマスクブランクの売上高について、前年同期比でどうか？

A：Q別では申し上げにくい。通期で昨年の1.5倍程度の売上が見込んでいますと説明してきた。その水準で伸びており3Qも順調だ。2025年に400億円という水準に向けて順調に進捗しており、心配していない。

Q：EUVマスクブランクについて、来年の手ごたえはどうか？

A：いよいよ普及期を迎え、客先の稼働も上がっていき、当社の出荷も大きく伸びていくと確信している。

Q：電子部材の主力製品のEUVマスクブランク、CMPスラリー、赤外線カットフィルターの3Qの状況、4Qの見通しは？

A：定量的な説明は難しいが、電子部材事業は4Qが最も業績の伸びるタイミング。四半期ごとに売上高・営業利益は増加してきているが、お客様からの需要が高いのが4Qだ。これとライフサイエンスの伸びをあわせて戦略事業の通期目標は達成できるだろうと考えている。

Q：半導体不足の影響で、半導体製造装置の生産に影響が出ているという話も聞か、電子部材事業への影響は？

A：半導体関連製品の需要そのものは非常に強い。特にハイエンド品は堅調で大きな影響はない。

一方で半導体を使う自動車やスマホについては、影響が出ている。ただし、自動車用ガラス事業と比べると、電子部材事業で特筆して大きな影響が出たということはない。

【化学品セグメント】

Q：クロアリ市況の見通しはどうか？苛性ソーダと塩化ビニル樹脂の市況上昇の背景は？

A：足もとでは非常に高い水準になっている。

苛性ソーダは産業のコメとも呼ばれ、コロナ禍が明けて工場の稼働が上がり、需要が増加している。その結果、需給がタイトになり価格が上昇している。今のところ、この状況がすぐに崩れる要因はない。

塩化ビニル樹脂の市況価格は、北米の寒波・ハリケーン、中国の電力不足・石炭不足の影響を受けた。域外から東南アジアへの流入が少なく、インドの需要も強いいため、東南アジアの需給はタイトになっている。周辺地域の状況を見てもそう簡単にタイト感は崩れないだろう。構造的にも、スプレッドが以前の状態まで縮小していくことは考えにくく、それなりに高いスプレッドが続くと考えている。

Q：中国の環境規制強化は苛性ソーダと塩化ビニル樹脂の需給にどのような影響を与えるのか？

A：塩ビの生産方法としてアセチレンカーバイド法とエチレン法があるが、中国では前者での生産割合が大きい。アセチレンカーバイド法は原料と発電エネルギーとに石炭を使用しており、増産しづらい状況にあると思われる。この状況は、東南アジア市況にとっては長くプラスに働くと考えている。

Q：クロールアルカリの生産能力増強の状況は？

A：インドネシアでPVC 20万トン増設工事を行っており、来年初頭から稼働予定。その後はタイでの増設を予定しているが、こちらはまだ時間がかかる。

Q：ライフサイエンスの売上高は、ここ4四半期ほど横ばいとなっているが、生産能力が上限に達しており、売上高が伸びないのか？それとも部材不足が原因で売上高を伸ばせないのか？

A：順調に拡大はしているが、部材不足の影響はゼロではない。来期以降も大きく伸びていこう。欧州の増強も控えており、一層伸長していく。

Q : ライフサイエンスについて、Novavax 社向けの受託販売の動向は？

A : Novavax 社が発表している通りの進捗だ。順調に推移していると考えている。

以 上